

# 会 議 結 果 報 告 書

令和3年3月19日

<b>会議の名称</b>	令和2年度 第3回 東栄町総合計画推進会議	<b>開催年月日</b>	令和3年2月1日（月）
<b>開始終了時刻</b>	午後6時00分～午後8時00分	<b>開催場所</b>	東栄町役場会議室
<b>出席者</b>	<p>評価委員：愛知大学地域政策学部学部長岩崎正弥、椋山女学園大学教授阿部順子、 東栄町商工会長村本敏美、愛知農業協同組合東栄支店後藤佳史、 東栄区長会長原田邦夫、イベント実行委員経験者山本貴子、 豊川信用金庫支店長櫻井幹功、まちづくり座談会実行委員和合真由美、 東栄町校長会長後藤理恵、時事通信社豊橋支局長小林岳史</p> <p>東栄町：町長村上孝治 副町長伊藤克明 参事村松元樹 事務局：振興課長長谷川伸 // 企画政策係長佐々木和歌子 // 企画政策係西森政智 // 企画政策係市野瀬貴史</p>		
<b>欠席者</b>	東栄郵便局長金田徹也		
<b>資料</b>	資料1、2		
<b>会議の概要</b>	<p>&lt;議事の概要&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第6時総合計画後期計画案について</li> <li>2 今後のまちづくりについて</li> <li>3 その他</li> </ol> <p>&lt;協議・報告事項 詳細&gt;</p> <p>【開会 18:00（あいさつ）】</p> <p>（事務局）</p> <p>これより、令和2年度第3回総合計画後期計画推進会議を開催します。本日の委員出席者について、</p> <p>【オンライン出席】 時事通信社 小林委員・豊川信用金庫 櫻井委員）</p> <p>【欠席】 東栄郵便局 金田委員</p> <p>のようになっております。ご了承ください。</p> <p>開催にあたりまして、町長より挨拶申し上げます。</p> <p>（町長）</p> <p>本日はお忙しい中、夜分にも関わらず御足労いただき誠にありがとうございます。</p> <p>どうぞ、よろしく願いいたします。</p>		

(事務局)

それでは議事に入ってまいります。まず、議事の進行役として、前回に引き続き、愛知大学地域政策学部長の岩崎先生に座長をお願いしたいと思います。

では、岩崎先生、よろしくお願いいたします。

(岩崎座長)

こんばんは。今回は今までと違い、対面とオンラインという所謂ハイブリッド方式で実施しています。こういう取り組みも、これからコロナ下における普通の姿になっていくのだろうと、改めて感じています。今日は最後ということで、早速次第に沿って、議事を進めてまいります。

次第に従い、本日の流れを確認させていただきます。

まず初めに、第6次総合計画後期計画案について事務局より説明をしていただきます。その後、委員の皆様から事務局案に対する御意見をいただくことで、計画の最終案を固めます。その後、今後のまちづくりについて委員の皆さんから御意見などをいただき、今後のスケジュールを共有し、本日は終了となります。

では、さっそく議事に入りたいと思います。

まず、議事の一つ目、第6次総合計画後期計画案について、事務局より説明をお願いいたします。

(事務局)

はじめに配布資料の確認をさせていただきます。

本日の資料は、

資料1：第6次総合計画後期計画案に関する御意見や御感想

資料2：第6次総合計画後期計画（案）

の二つになっております。

はじめに、資料1の第6次総合計画後期計画案に関する御意見や御感想について説明します。

これまでの会議で議論いただきました計画案につきましては、令和2年12月18日～令和3年1月17日にかけてパブリックコメントを実施しました。期間中にいただきました御意見等と対応方法や町の考え方をまとめたものが、この資料1になります。

一番左側に書いてあるページ数は、パブリックコメントを実施した際の計画案のページ数です。その右側の「パブリックコメントで寄せられた御意見」に、今回期間中にいただいた御意見等を記載しております。その右側に町の対応方法や考え方を記載しました。

総合計画の最終案に反映したものについては、具体的なページ数をかっこ書きで記載しております。

パブリックコメントでの御意見の反映や、一部語句等の見直しを行った最終案が、資料2になります。

それでは、資料2の第6次総合計画後期計画（案）をご覧いただきながら、最終案について、ご説明いたします。パブリックコメントに提出した時から変更している部分については、赤字とアンダーラインで表示してあります。

3枚はねていただき、2頁をお開きください。中段以降になりますが、これまでの会議でも説明させていただいておりますとおり、今年度策定している後期計画は、10年間の町が目指す大きな方向性に変化がないことから基本構想を堅持し、今後5年間もその実現を目指していくための計画です。そのため、基本構想の変更は行いませんが、記載されている固有名詞や年度表記等については、必要に応じて読み替えを行うものとします。

次は3頁です。本計画では次の3点について計画の役割や位置づけとして記載しています。一つ目は3頁にあるとおり実行性のある計画であること、二つ目は6頁にあるとおり進行管理ができる計画であること、三つ目としては8頁にあるとおり社会の変化に対応した計画であることです。

パブリックコメントの中では、具体的な施策ごとの目標値の設定や、達成状況への評価、評価を踏まえた計画策定の流れについて、分からない、つかめない、との御意見をいただきました。そこで、3頁に赤字のとおり、計画に基づく事業実施と評価の流れについて追記しました。もともこのページでは、(1)実効性のある計画へ、ということで計画と評価の関係性や、計画と各種計画との関係性という2点を記載していました。より分かりやすくするため2つの項目に分け、3頁に計画と評価の関係性をより重点的に記載し、4頁・5頁に本計画と各種計画の関係について記載しました。6頁では計画と個別具体的な「事業」との関係性が分かるよう、図表として総合計画が目指す町の将来の姿を実現させるための計画の構成を、追記しました。7頁では目標値及び重要業績指標設定の考え方を再度整理し修正しました。目標値については、施策を客観的に評価するうえで、数値を用いることが適当なものもあれば、数値目標の設定が妥当でないものもあることなどを具体的に例示しています。一律に数値によって達成度合いを測るだけでなく、施策によっては状況や仕組みづくりそのものが目標となる施策もあることを記載しました。また、これらの計画の構成や施策毎の関係性などが、施策に関する計画部分でもわかるよう、78頁及び79頁には、部門別計画の見方を追記しました。

また、前期計画では目標値に「住民満足度」が使われており、今回の後期計画で使われなくなったことに対し、町民の満足度が分からなくなってしまう、との御意見もいただいております。パブリックコメントの回答にも記載しておりますが、この計画の策定にあたっては、前期計画期間に施策を進めてきた行政内部の自己評価や、外部有識者評価だけでなく、住民意識調査等の結果は大変重要なものと受け止め、計画策定にあたっては重視してきました。そうしたことから「第3章 東栄町の現状」に記載していた住民意識調査の結果を、第1章の前期計画期間の振り返りに含めるものとして、記載場所を16頁以降に変更しました。

なお、「住民満足度」を目標値に設定することですが、先ほどご説明したとおり、施策を客観的に評価し、その施策の達成度合いを測る必要があることから、目標値として適切かどうかの検討

を重ねました。町民お一人おひとりの性別、年齢、暮らす状況や場所などが異なる中で、満足度は客観的に施策を評価するための目標としては適切性に欠けるとの結論に至りました。もし、満足度を目標値とする場合には、その施策の対象となる人に調査対象を絞るなどの工夫が必要との考え方も共有しました。ただ、住民満足度の結果が大変重要であることには変わりなく、施策の再点検や見直しの際に重視する姿勢は今後も変わりません。

次に、81 頁をご覧ください。ここでは文言の整理について、説明します。この基本目標 1 支えあう健康福祉のまちづくり の分野では、令和 4 年 7 月に整備予定の、新東栄医療センター・保健福祉センターに関わる記載が複数出てきます。脚注 5 にあるとおり、現在運営している東栄医療センターを「東栄医療センター」とし、令和 4 年 7 月に整備する施設を「新東栄医療センター・保健福祉センター（仮称）」としました。基本的に、新東栄医療センターと保健福祉センターを併記しますが、それぞれを別に呼ぶ場合には、83 頁の個別施策 1 の重要業績指標のように、（仮称）をつけて個別に記載しています。

次に 94 頁をご覧ください。目標値について、注意書きを追加しています。通常、目標値の欄には、現状値として平成 26 年度及び令和元年度の実績値を記載しています。ただし、この「子育て支援」の施策では、子どもたちが東栄町で健やかに成長でき、保護者が安心して子育てのできる環境が整っているまち、を目指しており、その達成度合いを測るものとして 0 歳から 14 歳までの人口を目標値としています。設定にあたっては、第 2 期東栄町人口ビジョンで目指す数値と整合性を図るため、他の目標値の欄と年度の記載が異なっています。少し例外的な設定になるため、注意書きを追加しました。

同じく目標値に関する追加です。目標値及び重要業績指標の設定において、年度単位での実績値算出が難しいものや妥当でないものについては、平成 26 年度から令和 7 年度の累計値を目標設定しているものがあります。例えば、150 頁の農道やかんがい排水施設等の維持管理については、目標値として農道及びかんがい排水の改修路線数を設定しています。改修が必要な箇所や箇所ごとに改修が必要な長さは異なるため、目標値は平成 26 年度から令和 7 年度までの累計路線数としています。

一方、99 頁の一番下にあります目標値は「在宅から障害福祉施設に入所した人の数」を設定しています。こちらは制度の変更などにより、平成 26 年度からの累計数がかめないことや母数となる対象者数が多くないことから、年度ごとの目標設定が難しいため、令和 2 年度～令和 7 年度までの累計を目標値として設定しています。

続いて、104 頁です。こちらは、国民健康保険の適正な賦課・徴収に関するものですが、個別施策の説明文の内容が不十分だったことから、改めて追加しております。具体的には、102 頁で課題点として、新型コロナウイルス感染症の影響による保険料収納率の低下懸念を挙げておりますので、保険料の免除等による適切な対応によって収納率の低下を抑える、という具体的な対応方法を追加したものです。

また、2 の健康の保持・増進と医療費助成の充実、においては、パブリックコメントでも分か

りづらさの指摘をいただいた部分です。医療費制度の名称や対象者は102頁に記載していますので、この104頁では説明を分かりやすくするため、表記を改めました。

次に131・132頁です。パブリックコメントで、互助・共助を考えるうえで、町外親族などによる畑や林地・墓の世話などについて視点が不足している旨の指摘をいただきました。土地の管理に関するものとして、町土の保全の課題として131頁に記載するとともに、132頁の個別施策に取り組むこととして活用方法に関する意向調査を実施する点を追記しました。

次は135頁です。こちらもパブリックコメントで指摘をいただいたものですが、ごみの総排出量と人口減少の関係性について、説明が不十分でした。ごみの総排出量は減っているものの、人口減少と比べ減少率が低いことから、さらに詳しく調査したところ、一人当たりのごみの排出量が微増傾向にあったことが分かるよう、記載を改めています。また、136頁の個別施策1の重要業績指標について、誤りがありましたので修正しています。

また、この重要業績指標について、一人1日当たりのゴミ排出量について、町民一人ひとりにとって認知しやすいものであるか、という指摘もいただいております。重要業績指標が示す目標値を達成するためには具体的な行動が必要です。具体的な行動につながるよう、ページの一番下にコラムを追加しています。

続いて172頁をお願いします。パブリックコメントにおいて、本計画の51頁に記載する社会動態を見ると、転入者が転出者を上回る状況とは見えず、また定着していると実感できない、というご意見をいただきました。そのため、51頁の社会動態の推移は、昨年度策定した第2期東栄町人口ビジョンと整合性を図るため愛知統計年鑑を出典としている一方、転入者が転出者数を上回ったのは、住民基本台帳を基に年度ベースでの実績を見た場合であり、出典が異なることを脚注に追加しました。また、若い世代の定着などが具体的にわかるよう、直近5年間で年齢3区分別人口では、年少人口の比率が横ばいであることも脚注に追加するとともに、170頁に、直近5年間の人口構成比率の変化を図表として追加しました。

最後ですが、182頁です。パブリックコメントで、情報通信基盤整備への御意見をいただき、暮らしを守るために整備する部分と、新しい時代に向けて整備する部分の優先順位が必要である点を改めて認識しました。情報通信の高度化が急速に進む中、時代に合った方法で暮らしを支える一つの手段として、優先順位をつけ、計画的かつ戦略的に整備を行うことを、個別施策2の施策名及び説明文、183頁の具体的な事業の例に追加しました。

なお、巻末には資料として、本日の会議までをふくめた本計画の策定経緯を添付する予定です。説明は以上になります。

(岩崎座長)

どうもありがとうございました。パブリックコメントを受けて修正したものが、最終案として今回この会議で諮られるということになります。

最終案及び事務局の説明について、何か質問があればご意見をいただきたいと思います。いか

がでしょうか。

(村本委員)

このパブリックコメントの募集に対して、何名位の方がご意見をお寄せくださったか教えてください。

(事務局)

パブリックコメントを2名の方からいただいております。

(村本委員)

2名の方のご意見を見せていただきました。肯定的なご意見も否定的なご意見もありますが、私としては予想していたことです。この意見を踏まえて修正を加え、改めて案を作ってくださいという、その点は本当に良かったと思っております。

(岩崎座長)

他にご意見がないということであれば、今回最終案ということで、承認していただけるということよろしいでしょうか。改めて、ご承認くださる方は、挙手をお願いできますか。

リモート参加の方もご承認ということよろしいでしょうか。(全員挙手)

ありがとうございました。それではこの最終案をもって承認ということにさせていただきます。

(岩崎座長)

それでは、議事の2つ目に移りたいと思います。今後のまちづくりということで、こちらも事務局から説明をお願いします。

(事務局)

これまで2回の推進会議と2回の行政評価、そして本日の第3回推進会議と、何度も熱心にご議論をいただき、たくさんの助言等をいただきました。本当にありがとうございました。来年度からは、いよいよこの計画を使って、さらにまちづくりを進めていくこととなります。そこで、これまでの会議等を振り返りながら、今後のまちづくりに向けて委員の皆さんから御意見をいただきたいと思っております。

- ・今後の東栄町のまちづくりに寄せる思いや期待
- ・委員ご本人、又はご本人の所属で取り組めそうなこと
- ・その他、本計画策定に関わって感じたこと

など、お一人あたり、5分位程度でお話をいただきたいと思っております。

なお、本日欠席をされています委員からも、事前に御意見をいただきましたので、後ほど報告

させていただきます。

(岩崎座長)

3点ほど課題がありましたけれども、この間この会議を進めてきた中で感じられたことということで、特にこの計画に限らなくてよいとうことのようにです。東栄町の町づくりに関して、思うところがあれば是非ご意見をいただければと思います。特にどなたかにということではありませんで、是非挙手してご発言ください。

(村本委員)

はい。最初に言ってしまった方が気が楽ですので、最初に言わせていただきます。

前回11月に行われたこの委員会の中で、事前に「この部分とこの部分についてご意見ください。」とご依頼をいただき申し上げたのですが、この中後期計画の中に反映をされており、いいと思っています。令和7年頃の東栄町の人口目標が2,700人という設計をされていますが、その中で超高齢化社会・人口減少が進む中で自助・互助・共助・公助ということが謳われておりますが、高齢化に伴い共助・公助の部分の割合がますます大きくなっていくことが予想されます。そうした中、令和4年7月に東栄医療センター・保健福祉センター（仮称）が拠点となり、町の「支えあう健康福祉のまちづくり」のためにも後期計画の推進のためにも、この事業を着々と進めていただきたいと思います。

また、高齢化に伴い、医療保険等の支出軽減のために、特定検診・住民健診の受診率向上に努めていただきたいと思います。

定住・交流を支えるまちづくり」の中でも、移住希望者を共に暮らす仲間としてとらえるためには、計画案中に移住ソムリエについて書かれていますが、いいことだと思っております。我々過疎地域は、幹線道路の整備も大切になってくると思います。言い換えれば、「命の道」と言っても過言ではありません。上級の機関への要望を含め、積極的に推進していただきたいと思っています。

(和合委員)

私は「おいでん家」の運営に関わっています。80ページの「支えあう健康福祉のまちづくり」というところに書かれている「医療・保健・介護・福祉等の分野の枠を超えた連携によって」という文についてです。実際、おいでん家を始めて2年目だったと思うのですが、普通に通ってこられた方が、段々認知になっていく様をみてまいりました。ですので、よくわかっているのですが、ボタンを掛け違えたまま着ていらしたり、汚れたままの服をきていたりするようになりました。1年2年と経つうち、深刻な状況になっているのがわかっていました。それで、その方の家の状況を見ていくことになりました。その方は独居の方だったのですが、ご家族・地域の方・ケアマネージャー・かかりつけの医療機関の看護師さんとおいでん家のメンバー・民生委員が連携

をとって、その方の現状についての情報を伝え合いました。その話し合いで、何を言っているのかは定かではないが、「寄らないで」と叫んでいたのを地域の方が見ていた。迎えに行ってもおいでん家に来ないので、スタッフが様子を見に行ったら、血だらけになっていたので対応した。

こうした状況が明らかになり、(認知症が)進んでいることがわかってきました。そこで、入院するという状況になったのですが、入院したら入院したで病院でも手に負えず、家族の方が常時交代で付き添うようなことになりました。

こうした段階の中で、地域でもこれは無理だな、おいでん家に頼るのも病院も無理ということになって、家族とまた話し合いをして施設に入られたんです。その間皆で連携をして進めていくことで、関わってきた私たちは、「よくやれたよね。よくここまで関わってやれたよね。」と、施設に送り出したんです。もしそういう気持ちじゃなかったとしたら、きっと誰かを責めてしまったと思うんです。「もっと地域は見れなかったのか。」とか、「家族は何をやっていたんだ。」とか、いろんな形で責め合ったと思うんです。その連携の中で一番良い方法をとることができ、人を責め合わずにすみしました。互いに知り合い、その方のことを気遣う関係性ができました。ここには本当に目指せる姿があるので、おいでん家でそういう経験があり、何かの機会に「こういう状況があるんだけど」というのが、打ち合わせ会などであるので、それを共有しながら一人一人に向き合うことができる街づくりができるというのを、経験からお話させていただきました。

(原田委員)

まちづくりに寄せる想いということで、東栄町では選挙などがある度、町内を二分するような感情があります。それがいつもしこりを残し、嫌な思いをするということが度々感じられます。やはり、「まちづくりは人づくり」であり、ひいては人の輪。これが一番大切なことではないかと思います。学業を終え社会人になってからは、例えば青年団・消防団・婦人会・地域の祭り・趣味の会・老人会など、都会にはない輪であり地域の絆があります。このような輪で、これからもまちづくりができたらいいなということを思います。

それから、現実的な話としましては、集落カルテの益々の充実をお願いしたいと思います。これは絶対に、東栄町を自信をもって紹介できる立派な資料になるかと思っています。

個人的に取り組みそうなこととしてですが、この3月で職を終了し余裕ができる予定です。防災士講習を受講し、防災に貢献できるようにしたいと、このように考えています。近年各地で発生している自然災害が、想定外の規模でますます重大化しています。昨年ボランティアリーダー養成講座に参加してわかったことですが、ボランティアに参加したいからといって、即座にボランティア活動に行くことはできないんですね。まずボランティア保険に入って、登録してから始まるということです。このような準備をしていきたいと思っています。

策定に関わって感じたことです。総合計画は7つの基本項目とそれに続く基本施策からなって、幅広い分野にわたっています。関わり始めた当初は、これらの項目を全て達成するというときに、いささかの懸念がありました。しかしこれは総合計画であって、まちを動かすためには、

全て必要なことだということがこの会に参加してわかりました。ただ、優先順位と申しますか、重点事項についてはその想いを強調し、意気込みを伝えるべきではなかったかと、自分なりに反省しているところでございます。

(後藤理恵委員)

お願いします。まちづくりは人づくりっていうお話がありました。私は学校の立場でこの会議に参加させていただいたことで、私達が学校教育でやっている人づくりが、まちづくりに直結しているんだっていうことを実感できました。この事が何よりの収穫です。

主に教育に関係するところで意見を述べさせてもらっていますが、その中でも二つの視点があります。一つは教育する側の視点でどうかということです。そしてもう一つは、第一回の会議で「子どもが動けば人が動くんだ」といわれたその言葉が非常に心に残っています。

子どもたちが何か力になれる活動があるんだな、ということを今強く思っています。ですからこの基本目標の2のところ、学校教育みたいのがあるんですけど、それだけじゃなく、環境の分野でも安全の分野でも、いろんな場面で、子どもの力でまち作りに関わるところがあるかなっていうことを今考えているところです。

それから、「人が人をつなぐまち」というような言葉がどこかにありましたけれども、これからの時代はそれがとても大事です。先ほどの「おいでん家」の話もそうですが、行政は行政だけ、民間は民間だけ、学校は学校で、というのではなくて、それらが互いに繋がっていくということやつなぐ人の存在というのがとても大切だと感じています。今後は学校もコミュニティスクールを目指しています。そういう意味でもそういう方向に向かっていきます。これからは、それがキーワードになっていくのだらうと思います。

7番目の協働によるまちづくりについてですが、これからまちづくりがどうなっていくだろうか、うまくいくだろうか、そういう気持ちで見えています。

私は、あの小さな小学校を運営する立場にありますが、そういう小さなところでも1人1人考えが違うのは当たり前ですし、新しいことをやろうとすると不安があります。ただ学校は子どもを通して通知を配れば保護者の方も関心を持って読んでくださいます。しかし、町の経営っていうふうになっていきますと、本当にこの発信をしたりとか、広く行き渡らせたりだとか、そういうことが大変です。総合計画の中に、「見ざる、言わざる、聞かざる」の絵がありましたけれども、自分事・我がこととして受け止めてもらうことが、一番難しいんだらうなと感じました。

それも、やはりそこで重要なのは人の力です。「天地人教育」の部分の目標設定はほとんどの項目が「推進」と書かれています。私もこの会議に出席しここで色々なことを知ったことで、今年早速、この天地人教育とまちづくりとの関わりを持たせた内容でやってみたりと、取り組みを進めています。このように、人の動きがあって、それらを広げていくものだと感じています。

ちっちゃなことですけども、それが何か大きな変化に繋がっていくといいなと思っています。

私は町外の人間で、地元の設定楽町の広報もしっかり読んでいないので大きなことは言えません

が、医療センター・保健福祉センターの変化について、心配や批判等いろいろなことがあるのかなと思います。けれども、今後そこが一次医療の入り口として上手くこう繋げていくような活動ができれば、また見方も変わってくるのかなと思ったりもしています。

今回参加させていただいて、非常に学校づくりへの道が開けた感じがして嬉しく思っております。

(岩崎座長)

はい、どうもありがとうございました。

もうお一方お願いしましょう。

(山本委員)

まちづくりに期待することで、164 ページ 165 ページの観光施設の見直し整備、観光情報発信の推進、私ここをとっても期待しております。

164 ページのところのにき山学校のことを書いてあるんですけども、新型コロナですね影響によってリモートワークやバケーション、サテライトオフィスの活用の可能性を広げるために、整備の検討を進めます。という記述がありますが、この点に本当に期待しております。

私は、のにき山学校のカフェ「のっきい」でお手伝いさせていただいています。こちらの設備はまだ Wi-Fi 環境程度しかありませんが、それでも実際今の段階でかなりリモートワークというか、ここでゆっくり時間を過ごしながらか仕事されている方がいます。のにき山学校は名前にあるように「体験交流館」ですので、あそこの環境整備をしていただければもっとリモートワークとかいろんなことができるんじゃないかなって思います。

それから、165 ページの情報発信の推進、こちらもととても期待しております、町の地域資源を生かした観光PRの動画制作と来町のきっかけ作りのオンラインショップと合わせたリモート観光（世界でもリモート観光は流行っていますし）ができれば、コロナが落ち着いたその後、東栄町に来てくれる人が増えるのではないかと思います。このリモート観光では、ぜひ町の食を楽しんでいただきたいので、リモート観光に食事をセットして送るサービスや、体験事業でも、制作キットを送るようなリモート観光ができればと、期待しているところです。

また、イベント等に参加・企画の両方がかかわっていますが、町のドームで行う春夏秋冬の四つのイベントがこのコロナ禍で中止になってしまいました。星空音楽祭のリモート発信で実施したところ、リモートかなり良い手ごたえがあったので、こういう発信をどんどんしていき、時代に合わせて変化をしていけたらいいなと思っています。

この会議にかかわるまでは、本当に申し訳ないくらい何もわかっていませんでした。この会議に出席することになって、こんなにすごいことを東栄町はやったんだなということを知ったというのが、正直なところです。

この冊子（総合計画後期計画）が家にあっても、正直、読むだろうか…。と思います。ですの

で、もっと簡単に、どの家庭にもある電話帳のような簡単な冊子のようなものにできれば、どの家庭でも見てもらいやすくなるんじゃないかと思います。

それから、4～6 ページを見ていただくと、SDGs の 17 項目のマークが使われています。このプロジェクト（総合戦略）と SDGs との関連性をサイン（マーク）を使って色々な場面でアピールしてはどうでしょうか。やっぱり目から入る情報っていうのは大事なので、もう少しこのマークも町の生活の中に取り入れられたらと思っております。

（岩崎座長）

具体的なご意見ありがとうございました。

（後藤佳史委員）

本当に東栄町のことをあまり知らず、第三者目線でしか見てこなかったんですが、農協という立場でこの会議に出させていただきました。最初からいろんな課題がありましたが、こうして最後の段階にたどり着いて、本当に立派なものできたなというのが、正直な感想です。

こうして拝見させてもらおうと、イラストが使われていたりして非常にわかりやすいと思うし、SDGs のロゴなども関連で掲載されているので、わかりやすいかなと思います。

もし可能であれば、SDGs のロゴの中の文字の判読し辛いものについては、別途注記してもらえたらと思います。ここに SDGs の説明を加えることで、町民の方にとってもわかりやすいものになると感じました。

内容に触れたいと思います。農協の立場で参加していたのですが、会議の中ではあまりの農業に関することをお伝えすることができませんでした。計画を読ませていただきましたが、この中で取り上げられている遊休農地については、農協の方でも考えている事項です。計画の中で遊休農地の調査・再生活動を進め、その活用を通して町の景観を保っていくという文言だったと思います。私も、景観の問題に関心があるものですから、農業を活用した経済環境の輪が広がってくるといいなと思っております。この分野は農協としてもぜひ協力していかなければいけない部分だと思っております。

（岩崎座長）

はい、どうもありがとうございます。

（櫻井委員）

個人的な意見になりますが、先ほども言った通り、総合計画後期計画の中身を拝見し、素晴らしいものが出来上がったと感じている、というのが正直なところです。

ただ都市とこういった中山間地とでは違いがあるかとは思いますが、ボリュームの関係があるのかもしれませんが。また、こういう計画自体が 5 年という間隔が決まっているのかもしれませんが

が、時代の変化を考えると、3年程度のスパンで見ていった方がいいのではないかと思います。スピード感をもって、ボリュームを少し減らして、3年サイクルでというのが、時代のスピード感に合っているのではないかとというのが個人的な意見です。

都市の方はスピード感ある。こっちの方が流れがゆるやかであり変化もないから長期的スパンでという考え方もあるでしょう。また、これだけの大きな事業を3年間隔でまわしていくことはなかなか難しいのだらうとは思いますが、今の時代のこのスピード感をもってすると3年間隔ぐらいが適切かなと思います。すいません、正直な、個人的な意見になります。

農協さんもおっしゃっていましたが、金融機関として、余暇資金でいろんな方のご支援ができたらなあというのが弊社の思いです。

ただ皆さんもご存知の通り、人口減と労働生産者の高齢化で、新規のお金のご利用も年々減っています。こうした状態の中うちの支店では、お客様との繋がり、関わりを強く持っていきたいということで、他の支店とは違った形でまちづくりに参加できたらなと思い、この1年はやっついこうと考えています。

今手がけていることの一つは、東栄町のPRです。うちの一宮支店というのがあるんですが、観光まちづくり協会・町の振興課の方のご協力をいただいて、今週金曜日に搬入作業にあたります。

中心は振興課や観光まちづくり協会の方による物産展・パネル展示になります。お客さんの動向や色々な方のご意見を取り入れながら、変えられる点を変えていきつつ、1~2か月の実施を計画しています。

後半の1か月には、「こういうコースで東栄をまわって、おいしいものを食べたいね。」と、東栄町に足を運んでもらえるようなところを目指したいと思っています。近隣の一宮支店ですのでそんなに遠くない。お客さんに興味を持っていただき、足を運んでいただけるんじゃないのかなってというのが、この取り組みのスタートになりました。

一宮の支店は、東栄支店の倍以上の床面積があり、来店者数は何十倍もあります。待ち時間に見ていただけたらと思って、来週の月曜からご紹介をさせていただきます。

冒頭にお伝えしましたが、繋がり・関わりを持っていきたいということ、地域社会の発展に奉仕するという私どもの理念の中で、特産物などを信用金庫のネットワークを使っていろんな形で考え、アナウンスさせていただいて、この地元企業・地元業者を元気づけたいという思いで、それらを計画しています。

仕事を通していろんな会議に出させていただくんですけども、皆さん異口同音に言ってくださるのは、「設楽町、東栄町、豊根村の中で一番東栄町が勢いがある。」ということです。

正直3千人の規模の町で、間違ったらあれなんですけども24店舗ぐらいかな、飲食店があります。設楽や新城・豊根も、この小さな東栄町の動きを注視している向きもあります。皆さんのご意見をうかがう中でも、「東栄町で引っ張っていただけたら。」という声を聞きます。また、金融機関発の情報というのは、一般の方が発信するよりも説得力があるよということも会議等で

言われております。例えば、SNSで「ここがおいしいよ。」というよりも、信用金庫のホームページで発信の方が説得力があるのだと言われます。ですので、そういう部分でまちづくり・発展の中の一部でも牽引できたらなという思いで、この2021年度もやってまいります。

(阿部委員)

まず冊子を見て、これだけのボリュームのものをよくお作りになった。日頃の業務の上にこれを取りまとめたり、お作りになった役場の職員の皆様に本当に敬意を表します。

愛知県や名古屋市もかなりたくさん仕事をしていると思いますが、役所の規模も大きい。たくさん職員がいるところと違ってこちらはもう40人とかそういう規模の役場です。それでもやらなければいけないことが自治体として幅広くあって、皆さん頑張ってらっしゃるはずなんです。だけれども、このパブリックコメントを読んで、お二方と聞いてちょっとびっくりしたんですが…。

病院のこともそうなんですけど、役場の努力が伝わってないかもしれないなっていうのをすごく危惧しています。先ほどからのお話にもありましたが、これ、関わってみるとすごくいいことやってるのがわかる。けれども、関わらないと家にもしこれ1冊あっても目を通すか!?(否、通さないだろう。)

せっかく考えてみんなでやりましょう頑張りましょうって決めたんだったら、それが伝わるようなやり方っていうのを考えた方がよい。それはもしかすると、インスタグラムの15秒のストーリーかもしれないし、ユーチューブみたいな動画のシリーズかもしれない。

今日もみなさんから「情報共有」という話が出ましたが、どういう方法で、どういう年代の人に、どういう形で届けるのがいいのか、あの手この手でやらないと。集落カルテもそうですが、一番難しところです。情報を共有できていないと、不満もいっぱい出る。

だからせっかく今回まとめ上げたものをどうやって共有するかっていうところにまたエネルギーを使っただけだったらいいのかな、と思います。マンパワーが少ないっていうのはどうにも変えられませんから、外部をうまく利用していただきたいと思います。

パブリックコメントに「町外者の言いっ放しで」っていうのがありました。私個人は言いっ放しなつもり全くないんですけど、その外部をうまく利用していただけたらなと思います。

外の目から見ると、東栄町に宝物っていっぱいあります。例えば今日私あの午前中に町民の方のお宅に呼んでいただいて、蜂蜜をご馳走になりました。日本ミツバチの蜂蜜です。これを商品化すれば、かなり高価なものになる間違いないですね。ご趣味でおやりになってるもったいなと思います。それから、東栄町産の里芋ってものすごく美味しい。名古屋のスーパーでも買う気がしなくなるぐらいです。それらに名前をつけてブランド化して出すとか、町が持つる資源の売り出し方って色々あると思うんです。でも、東栄町の皆さん、謙虚でらっしゃるので、思いつかれない。

それから、やっぱり失敗するのって怖いですね。だから、信用金庫さんとか農協さんのご協

力を得て、何かみんなでチャレンジをと思います。そして、歩を踏み出すためには、やはり外部から「ここが優れていますよ。」と言ってくれる存在が、多分必要なんだろうなと思っています。だから私は、外から見ていて「これはすごい」ということを声を大にして言うようにし、尚且つ身銭を切っても応援するように努めています。

そういう私みたいな人がたくさんいたら多分違ってくるんです。じゃ、どうしたらいいか。

私としてはのき山学校を耐震化して、フルオープンで堂々と使えるようになることっていうのは一つ突破口の一つと思っています。

建築の専門家として私が持つてる人脈、それから知識とか総動員して、のき山学校を日本で一番安く耐震化して、それをもっているいろんな人に視察に来てもらう。東栄町にどんどんお金を落としてもらおうっていう野望があります。

私はできるんじゃないかと思っています。今、日本中にある木造校舎のストックも調べてるんですけども、勝ち抜ける一つの突破口にならないか。

私だって失敗は怖いんです。失敗できないと思ってやって、いろんな手当てもしながら、怖いけれども頑張っています。でもその怖いけど頑張ってるっていうのを町民の皆さんと共有しながら一緒にチャレンジできればいいなと思っています。

魅力ができることで、新しい人口や関係人口が増えて、東栄町が消滅しないようにできるんじゃないかなあと思っています。

怖いんですよ、新しいことやるっていうのは誰でも。私だって失敗もしたくないですし、怖いんです。でも怖いけどやらないと何も変わらないし、何も生まれない。ネガティブなことを一生懸命考えても何も変わらないので、やっぱりみんなで頑張っていきたい。そのためには情報共有っていうのはすごく大事で、どうやってやれるかっていうのをまた皆さんと話しながら。3,000人いるとやっぱりフェイス トゥー フェイスのコミュニケーションも難しい。年齢も様々です。どうしたらいいのかっていうのを次のフェーズとして皆さんで考えていただければと思います。

(岩崎座長)

お1人お1人にご意見聞きましたけど、言いそびれたことや言い漏らしたことがありましたらお願いします。

(和合委員)

私もこのまち作りに関わって、本当に住民代表という名前をもらって関わってくる中で、様々な問題・あまり良くない声が上がってきたんですね。バイオマスの話・病院・保育園の建設費の問題もそうでした。本当に訳がわからないままに、この町のやり方に対する批判の声がたくさん上がってきて、この声を聞き流しておいていいんだろうかと。

こういう座談会があったり、こういうまちづくりの推進協議会があったりっていう場合に、

これに取り組まないで、これにも向き合わないでいいんだろうかと、本当に悩みました。

それで、バイオマスの話も両方の意見を聞いたり、病院の話もいろいろ資料を見たり話も聞いたりしました。

そうするとだいたいチラシを見たりした中でも、いろいろな声を集めて3分の1が反対になったり、3分の1は賛成なんですね。中間で3分の1ぐらいにあるような感じ。

けれども、状況を、私も役場職員の方に、このまちづくりを通して一生懸命の方に、またそれを投げかけました。その上で、「こんなにいろいろ問題があるのは何でなの。どうしてこんなに声が聞こえてくるの。役場は本当に一生懸命やってるのに、なぜこの反対の声だけが情報として飛び交ってるの。こんなに一生懸命やってることをどうして言わないの。どうしてわかるように伝えるための場を設けないの。」と、かなり強く言ったりもしました。これに対して役場職員は、「本当は言いたい。でも、やっぱり規則もあるしルールもある。そのために困難。」と返事をしました。私は再度、「町長は一体どうしてこういうことを発信しないのか。」と問いました。

これほどの熱意と真剣さをもってまちづくりを考えているにも関わらず、町長のコメントから、それが伝わっていないんです。町民が何を聞きたいと思っているのか、どういう言葉を届けたら、「これはありがたいことだ。任せるよ。」と思えるようになるのか、町民の気持ちに寄り添った話で語り掛けてくれたら、私たちはどんなに安心し、いいことだと思えるでしょう。「いや町長は真剣に考えてみますよ。」という声もたくさん聞きました。でもそれが私たち住民に伝わっていない。もったいないことです。

中には、「職員どうしてるの。なんかみんなあんまり明るい顔してないよね。」そういうと風評が入ってくるんです。こんなに立派な総合計画を作っていることを、役場職員は誇りに思ったりいいと思います。やらないといけないことがたくさんありすぎて、負担も多いだろうと思います。取り組みたくても重なる負担で思うようにならないことが多々あることも職員に聞いて感じてきました。

これほどまでに一生懸命役場が取り組んできた内容を伝えられないということを無念に感じます。どうしたら町長・副町長から、それが届いてくるでしょうか。本当に必死になって語ってくださったとしたら、届くと思うんです。

だから発信・言葉・挨拶。最初の挨拶もとても効果の高い発信です。どういう挨拶で始まるのかな。会議終了時の挨拶の冒頭が、「1~2時間の間で終わってよかった。」という話だったりすると、「時間を気にした会合だったのかな。」というふうに思ったりもしました。

反対の情報だけに操作されていくようなそんな町じゃないはずですが、さっき言われたように、本当にいいものを伝えるやり方を見つけてもらいたいと思います。また、今日言われた耐震・里芋・ハチミツの事業をすぐ取り上げてすぐ取り組んでみるっていうパワーがあったとしたら、また違うんじゃないでしょうか。

言ってもらってそうですねで終わっちゃってるんです。何でそれで終わってしまうのでしょうか、どんな小さなことでもいいので、一つ取り組んでみる姿が見たいなと思います。

こんなふうやっていこうということが、住民に伝わっていないということに対して、スタッフの発信の仕方、言葉の選び方、そして気持ちを届けていく方法、語り方を、見直しては思っております。

(岩崎座長)

今日、副町長も町長もおみえになってますので後で少しその思いを語っていただければと思います。

今日ご欠席の金田委員からですね事前に意見をいただいているということですので、事務局から報告をしてください。

(事務局代読)

人口減少や高齢化が進み、まちづくりを進めていくに当たっては、これまで以上に人手が足りず、難しい段階になってきた。だからこそ、みんなの協力が必要だと感じる。

行政だけがまちづくりを行うのではなく、様々な主体が得意なところを分担して行い、効率的にまちづくりを進められるとよい。

昨年度の総合戦略策定からこうした会議に関わり、町の中で起こっていることについて知らないことが多いということに気がついた。こうした会議での気付きは本当にたくさんある。この総合計画後期計画が絵に描いた餅にならないようにするには、この計画が町の中に浸透していくことが大切。浸透させるためには、計画がありますとアナウンスしても駄目で、次の2点が重要だと感じる。

誰かと一緒にまちづくりを行う視点、誰かを巻き込む視点が必要。行政だけで抱え込まずに、まちづくりにいろいろな団体や町民を巻き込んでほしい。

一緒にやるための情報共有が必要。計画策定のための会議に出て、町の情報を知ることの大切さや、情報を得ることで、より当事者意識が持てることに気がついた。

この2年間での会議などを通じて、郵便局では役場とまちづくりに関して協力しあうことについて、協定などが結べるよう、今準備を進めている。

とのことでした。

(村本委員)

僕は商工会の方の代表ということで出させていただきます。商工会と町で取り組んでおる移動販売の件です。この会議の中でも話題になっています。これからも町から委託を受け、事業者と共にやっていきたいと思うんですけれども、車両がもう買い替えの時期に入ったんじゃないかなというふうに思っております。1月7日にも新しい車両の下見みたいなものを行っております。町と協力しながら、買い物の支援について、協力してやっていきたいなというふうに思っております。

(岩崎座長)

補足いただきましてありがとうございます。

(小林委員)

今日はお疲れ様でした。今日の会議にオンラインで参加していますが、7時10分過ぎぐらいから通信が途切れてしました。その間を把握できていませんが、いただいた計画等も拝見しまして、非常によく作りこまれた計画だと思っています。

パブリックコメントなどで、ご意見のある方もいると思うんですけども、ひとまずやってくっていくのがまず重要なのかなと思いました。あともう一つ、コロナで世間が騒がしくなっていますが、こちらの方で今なお問題についてはあまり意識しないで進めてやはりものになってくるのは、多分個人的には、若い世代の方がどういうふうに育っていくかであるとか、外部から人・お金をいかに呼び込むかっていうところをやっていくことが重要なんじゃないかと思います。

計画を立てた以上はあまりブレずにやっていくことをお願いできればと思っています。

今日の通信が切れてしまった原因が何かははっきりしませんが、やはり情報基盤整備も重要なんだろうなと思っています。

(岩崎座長)

一通り委員の皆さんからご意見をいただきましたどうもありがとうございました。

先ほど委員から、ぜひ町長・副町長の思いを聞きたいという、そういうリクエストがございましたので、副町長から何か思いを語っていただければと思います。

(副町長)

先ほど委員のみなさんからご意見いただいた中で、情報発信とかあるいは情報共有という話というのは、みなさんのおっしゃる通りだと思います。

今回の総合計画もそうですが、我々のこういう形で町を作っていくというプランを実現させていくためには、今後実施計画等に取り組みながら、選択をしていくことになります。そういったようなことを理解してもらえるような情報収集が我々にも必要だと感じています。

人と人と繋がりというお話がございましたが、人と人の目で作られているのがこの社会でありますので、そういった部分についてですね十分反省しながら、この総合計画を実のあるものになりたいと思っています。

実際の作業としましては、今日冒頭で事務局から説明がありましたように、5年間の計画を作らせていただきまして、本日皆さんにご承認いただいたわけです。ここに至るについてはですね、前期計画の行政評価だとか、昨年の総合戦略の策定とか、推進会議の議論・意見など東栄町民の皆さんのお考えをうかがいながら作りあげてきたものであります。

やはり今度の5年間の基本計画を本当に形にするためには、皆さんと共有しながら、一つ一つ

着実に進めていくことが大事かなと思ったところであります。

お金の話ばかりしてはいけません、やはり限られたお金の中でやりくりするという現実があります。そのお金を1円たりとも無駄にせず、有効に使えるように取り組んでいきたいというふうに感じた次第であります。

(町長)

まずこうして関わっていただいて、今後政策を進めることも含めてご理解・評価をいただき、ありがとうございました。しかしながら委員がおっしゃるように、我々行政として情報の伝え方が課題であるという件は、ご指摘の通りだと思っています。特に我々の地域みたいに3000人ぐらいになりますと、当然若い世代が少なくなり、高齢者が多いわけです。ここの伝え方が非常に難しいと常日頃から思っています。

今年の場合は特に、コロナ禍にあってなかなか地域に出られなかったというのが反省点です。この第6次総合計画、皆さんに検証していただいた通り、10年間の基本構想を持ってその計画に沿って進めてまいりました。そういった中で、来年度からの5ヶ年計画を皆様にご意見をいただきながらまとめていきました。

今後の進め方としては、この基本構想の中にあります7つの項目と、一つ一つの政策事を取り組みとして書かせていただいております。先ほど副町長が申し上げましたように、限られた資源であります。これをどうやって活用していくかというところです。第1期の時に作らせていただいた「まちづくり基本条例」の中にあるように、皆様方と一緒に協働の中で見出していけないことには、実行に移せません。

資料中にもありますが、5年前の満足度調査に表れている通りだと思います。地元で考えていただくとうまくわかるように、このことが必要だという優先度というのは、世代等でも違いがあり、調査の意向だけで推し進められるわけではありません。この点を住民の皆様にご説明をし、理解をしていただきながら一つ一つ積み上げていきたいというふうに思っています。

先ほど委員がおっしゃったように、情報伝達のためにいろんなツールを使わなきゃいけないということは、我々職員も認識しているところです。しかしその使い方がなかなかうまくいきません。この文章通り、一つ一つ我々が行政の私たちが表現したものを読んで理解していただくということは、なかなか難しいものです。今日から2月になりましたが、今月からとうえいチャンネルを含めて8通りの情報の伝え方というのを整備しています。このところを生かしながら、皆様方にわかるような発信をしてまいります。

それから、おっしゃる通り、やはり人としての対面でお話を伝えることの必要性も痛感しています。

それから、振興課にも指示しておりますが、これだけ高齢者が多くなりますと、「中間層」の世代感が違います。伝え方も一辺倒に区にお願いし、組だけを集めていただくということがなかなか人の集まりとしては難しくなってきました。

従って、若い世代から高齢世代までをカバーするためには、単一の手法や場ではなく、色々な機会を設けて説明や意見交換ができるような場を作っていきたいと思っています。

それから「おいでん家」もそうですが、それぞれの地域で集会所でお集まりをいただいております。そういったところも含めながら、意見交換をできるようにしていきます。

それから、今後始めようとしています医療センター・保健福祉センターもそうですが、これは新しい施設を作るだけではなく、いわゆる医療・福祉・健康・全てが含まれる複合型の施設です。関係部署がしっかり連携を取れる施設として、整備をしていきたいと思っています。ここには子育ても含め、連携という状況の中で進めていきたいと思っています。

また特に思うのは、医療施設と言いますと、どうしても治療に目がいきってしまうのですが、今後はそういうことではなく、人が集まり、自分たちは健康を保つためにどうしたらいいかに取り組んでいくためのよりどころになるところを目指していきたいと思っています。

今一番困っているコロナもそうですが、医療関係者の不足、子育てでは保育士さんの不足など、人材不足が課題です。今、限られた人たちが頑張ってくださいっていますが、一人の方が兼務をしながら連携が取れるということが必要だと思っています。

「士・師」のつく人は専門職です。専門職をなかなか確保するのが難しいという時代になってまいります。それに思いを致しながら、ボランティアを含め皆様が互助の中で役割分担をしていくことで補いあいたいと思っています。

行政は当然その中心にあるべきであり、互助の重要性を伝えながら、しっかりしたまちづくりを進めてまいりたいと思っています。

皆様からいただいたご意見に反省する点多々ございます。情報発信についての取り組みの重要性を踏まえ、住民の皆様にお伝えできるように努力をしていきたいと思っています。

またこの計画が出来上がって終わりではありません。施策について、それぞれのお立場で、またご意見をいただければというふうに思いますので、どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(岩崎座長)

どうもありがとうございました。委員の皆様からのご意見も出たということで、本来なら座長として最後の取りまとめをということになると思うんですが、もう皆さんからですね個別具体的なすぐにでも生かせそうなですね、ご意見がたくさん出ました。私もそれをまとめるだけの力がございません。

町外に住んでいるということで、言いつ放しだというご批判もありましたけれども、町外に住んでいる人間がここにいるということは、その町の中の様々ある種の制約を受けない立場で言いたいことを言うと、それがあある意味その責任かなというふうに思います。

ですので、言いつばなしになることかもしれませんが、最後に今後まちづくりを進めていくにあたって、私が考える懸念2点をもってまとめとさせていただきたいと思っています。

懸念と言っても、これは解決可能なことだと認識しています。今後行政を含む協働＝オール東栄でまちづくりが進められていくわけですね。東栄町は総務省からも紹介されているように、もう既に頑張っている町として有名です。

でも、頑張っているだけに、もしかしたら「町が変わって寂しい」と、変化に取り残されて寂しい思いをする人が、もしかしたら出てくるかもしれません。

私は他の地域でそういう話を聞いたことがあります。でもその話をよく聞いてみると、変わることが寂しいということではなくて、その町が変化していく、その中に自分が関われない、それが寂しいんだということのようなんです。

まちづくりオール東栄といったときに、全てが活動できるわけではありません。当たり前です。いろんな背景、いろんな条件が違いますから、全てが全て同じように活動はできません。取りまとめ役の人がいれば、繋ぎ役もいる。どちらも非常に重要ですけども、そういう人ばかりではありません。動けないけど応援はできる人、声かけをする人とかですね、当然いるはずですよ。

口コミで情報を伝えていく、そんな人だって居ますよね。様子見はするけれども、動き始めたら動くよ、という人だって当然います。

場合によったら反対する方もおられます。でも反対するということはそれだけエネルギーを持っておられるということですから、そのエネルギーをうまく生かせるというのが望ましい。

つまり、多様な人たちがそれぞれ違った形で関わっていきけるような、そんなまちづくりができれば素晴らしいと思います。

そうならないと、一部の人たちだけが走っている、どんどん町が変わっていってしまうことに戸惑いを覚え、寂しさを表明する。そんなことが出てきやしないかなっていう、そういうことを感じています。

それから2点目ですけども、これはもうかなり長期的なテーマになるかと思っています。移住者とですね、それから地の方が共に暮らす「共住コミュニティ」と言ったらいいんでしょうか。そういう現象がこれからどんどん進んでいくと思うんですね。特にコロナで地方への移住者が増えていくはずですよ。そうすると、いろんな思いを持った人たちが入ってきます。「共住」中の中身が今まで以上に複雑になっていくと思います。伝統を重んじるということだけではなくて、ある意味要求をするような人たちも当然出てきます。もうすでにそういう現象があろうかと思っています。人口規模が数百人ぐらいの自治体、あるいは地区では、移住者が3～4割を占めるような地区も実際、もう出てるんですね。そうなったときに大切なのは、やはり「共住コミュニティ」のあり方、これからどのようなコミュニティにしていくのかということのですね、合意がやはり必要になってくると思っています。

ですから、全て伝統を守って残すのか、とはならないと思うんです。変えていくものも必要になってくるでしょうし、場合によっては新しい伝統を作っていく。というようなことも当然出てきます。

そのあたりの見極めということが非常に重要で、おそらくそれが今後、集落カルテの重要な課

題になっていくだろうと私は考えています。

アフターコロナ、これはビフォアコロナにもどれるはずは、絶対にありません。ある意味いい機会だと腹をくくって、ぜひこれから「共住コミュニティ」等のあり方、これも全国に発信できるようなものを考えてもらいたいなど、町外の人間として思っております。

まとめにもなっていないんですが、この間、長いこと皆さんといろいろな議論ができました。あるいは行政の方ともいろいろお話をしながら、こういう形で総合計画の後期計画がまとまったことを大変嬉しく思っています。本当に皆さん、今までありがとうございました。

最後になりますけれども、議事の三つ目ということで、事務局から今後のスケジュールについて説明をお願いしたいと思います。

(事務局)

今後のスケジュールのご説明をします。

先ほど本計画の承認をいただきました。ありがとうございます。巻末の資料をつけて、これにて計画策定作業を終了とします。その後、印刷製本作業に移ります。3月議会で本計画についての報告をし、4月から本計画の期間が始まることとなります。

なお、2月21日には、第2回まちづくり座談会を開催をする予定です。第1回に出席していただいた方に参加依頼などをしており、現在準備を進めているところです。今後のスケジュールにつきましては以上となります。

(岩崎座長)

以上三つの議題が終わり、本日予定していました議事は全て終了しましたので、最後に事務局にお返しをしたいと思います。

(事務局)

ありがとうございましたまた、委員の皆様におかれましても長時間また長期間にわたり大変ありがとうございました。

以上をもちまして第3回推進会議を終了いたします本日は誠にありがとうございました。

【閉会 20:00】